

令和6年度 高短生調査の結果報告

高田短期大学 自己点検・評価委員会

<本調査の目的>

高田短期大学に在籍する学生に対して質問紙調査を行い、学生の学習成果や短大生活の満足度等を把握し、高田短期大学の今後の教育や学生支援を改善・向上させていくための基礎資料の蓄積を目的とする。

<調査方法>

高田短期大学の全学生を対象として、質問紙調査を実施した。調査項目は①「基本属性」②「1週間あたりの活動時間」③「地域交流活動と学校行事への参加」④「大学生活の満足度」である。調査日は、子ども学科は1・2年生ともに令和7年1月28日、キャリア育成学科は1年生は令和7年3月3日、2年生は令和7年2月17日に実施した。

<結果>

①基本属性：所属学科および学年を表1・2に、通学時間を図1に示した。(回答者のみ)

表1 所属

	人数	%
子ども学科	247	59.1
キャリア育成学科オフィスワークコース	110	26.3
キャリア育成学科介護福祉コース	61	14.6
合計	418	100.0

表2 学年

	人数	%
1年	228	54.5
2年	190	45.5
合計	418	100.0

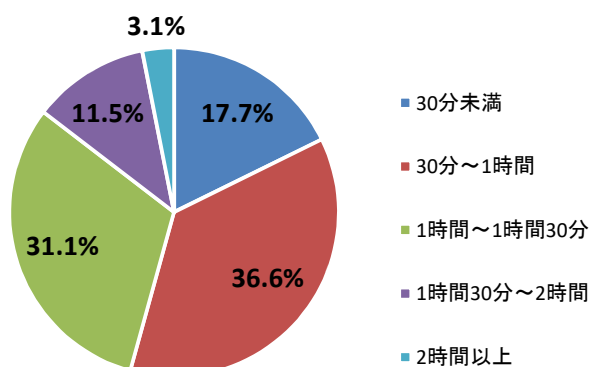
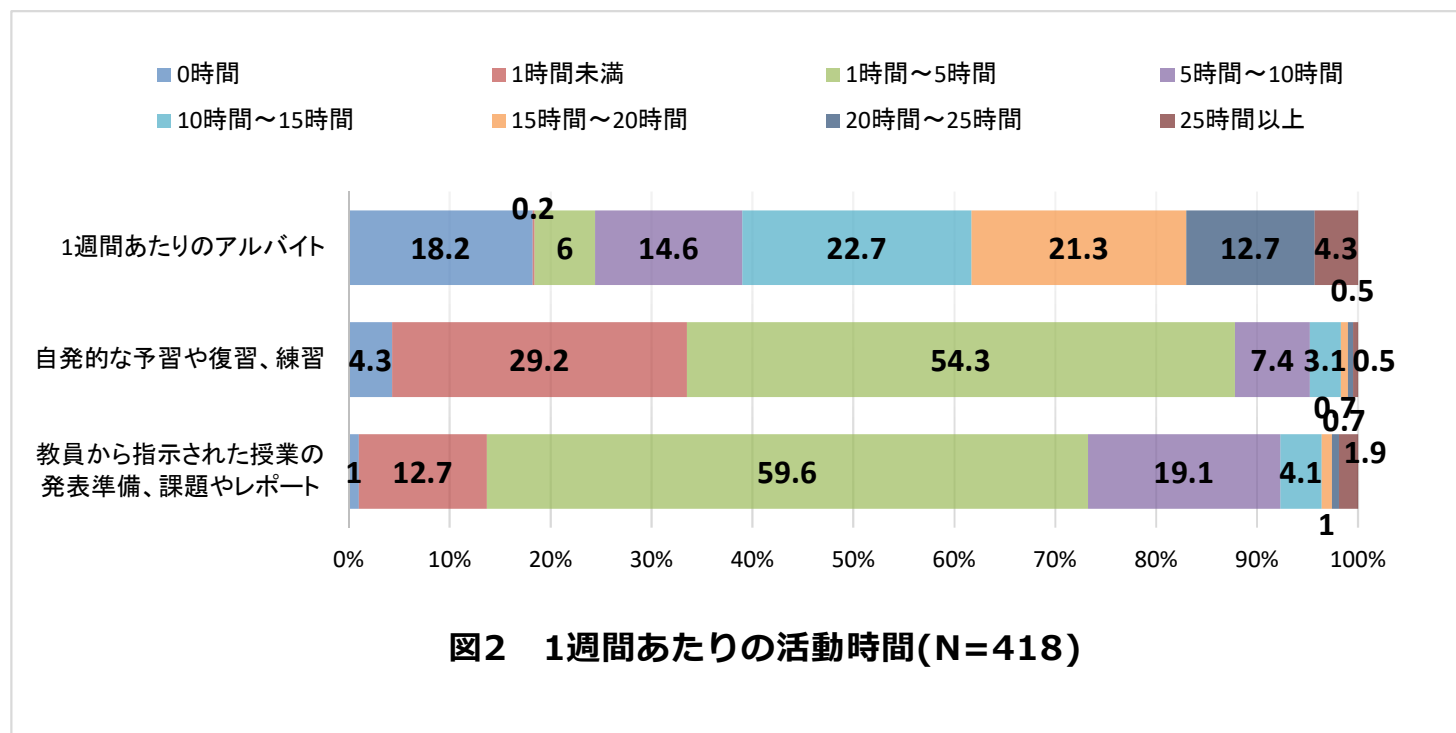


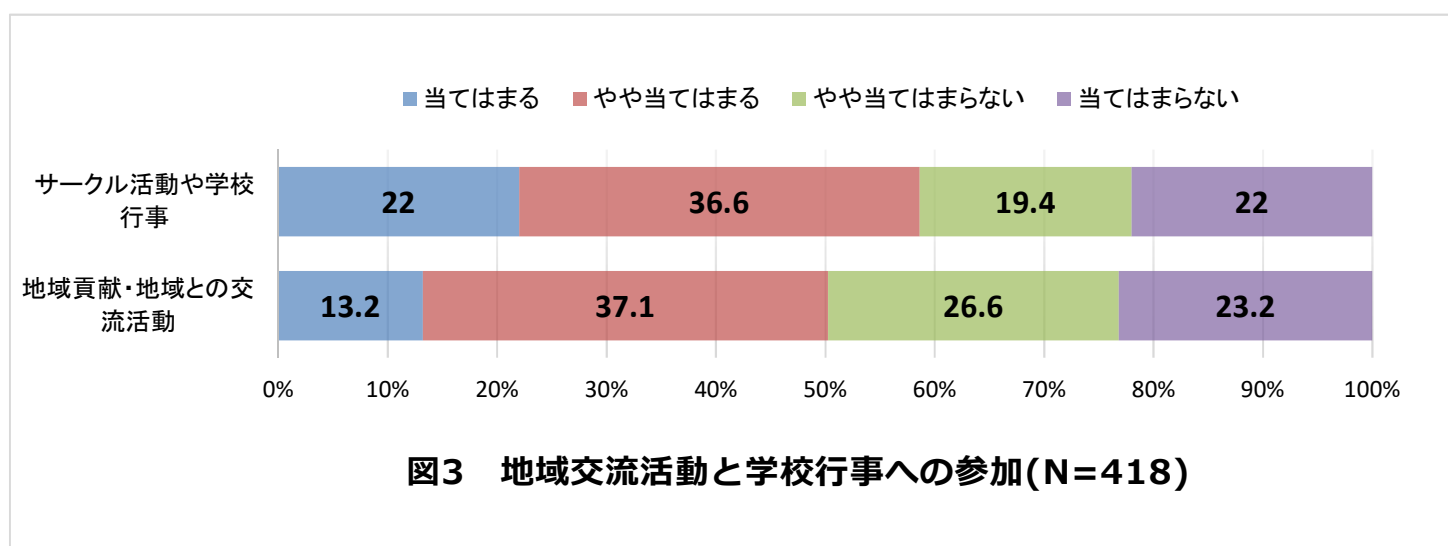
図1 通学時間(n=418)

<結果>

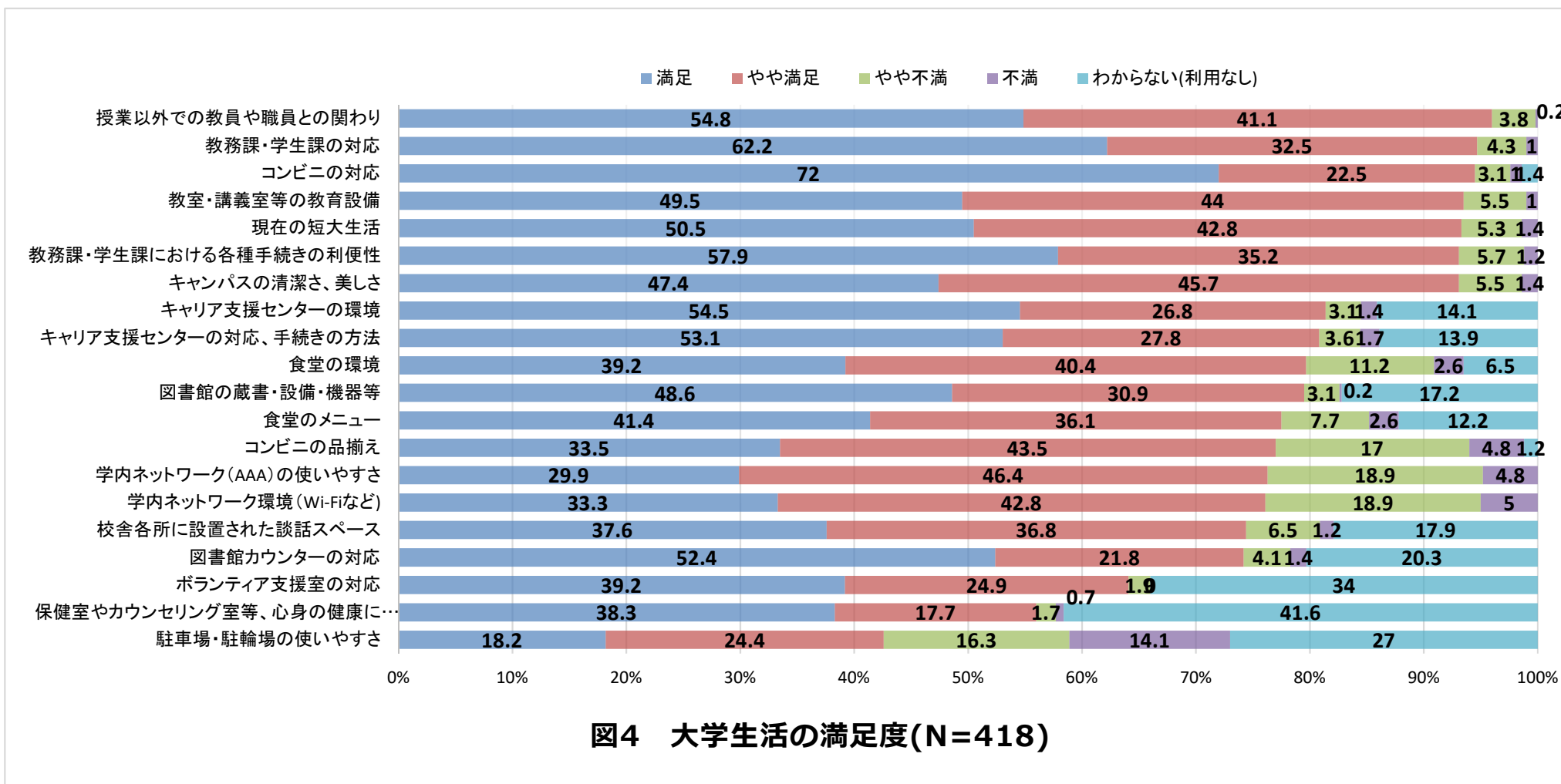
②1週間あたりの活動時間



③地域交流活動と学校行事への参加



④大学生活の満足度



* 分析対象 調査は467名の学生に行い、418名の回答があった(回答率89.5%)。
* 通学時間(図1) 1時間以内通学圏内の学生が54.3%で半数以上であった。
* 1週間あたりの活動時間(図2): アルバイト時間をしていない学生は18.2%であり、1週間あたり15時間以上の学生が38.3%であった。授業外での学習時間では、「自発的な予習や復習、練習」に関する学習では5時間未満が87.8%であり、「教員から指示された授業の発表準備、課題やレポート」に関する学習では、5時間未満と回答する学生が73.3%で、あった。
* 地域交流活動と学校行事への参加(図3) ボランティアなどの地域活動への参加はおよそ半数(50.3%)、学校行事は半数以上(58.6%)の参加である。学校行事と同じくらい、地域活動への意識も持っていると思われる。
* 大学生活に関する満足度(図4) 93.3%の学生が現在の短大生活に満足している。「キャンパスの清潔さや美しさ」「教室・講義室等の教育設備」「授業以外での教員や職員との関わり」についても90%以上が満足している。一方で、「駐車場の使いやすさ」については、満足とやや満足を含わせて42.6%であり、満足度は低い。
* まとめ ・回答率は89.5%であった。昨年度の回答率(79.8%)と比較すると9.7%回答率が上がった。詳細を見てみると、キャリア育成学科の回答率が高く、中でもオフィスワークコースの1年生と介護福祉コースの2年生は20%近くの回答率の増加が見られた。 ・《通学時間》については、結果のほとんどが昨年度と大きな違いが見られなかった。 ・《1週間あたりの活動時間》はアルバイトの時間は昨年度との違いはほとんど見られなかったが、「課題やレポート等」に費やす時間が5時間未満である学生が27.9%増加し、自発的な学習時間が5時間未満である学生が23.6%増加している。学科・学年別で比較したところ、両学科とも同じくらいの割合で学習時間が減少しており、1年生より2年生の方が学習時間は短い。 ・《大学生活の満足度》の項目にある「現在の短大生活」については「満足」「やや満足」が93.3%であり、昨年度(93.9%)と変化はなく、満足度が高い。 満足度の詳細を見ていくと、全体に大学の施設や教職員の対応の満足度が高く、それが短大生活の満足度の高さに影響していると言える。 ・昨年度の満足度(「満足」+「やや満足」と比較して5%以上の増減があったものは以下の通りである。 満足度が上がった項目は、「授業以外での教員や職員との関わり(95.9%)」(+6.8%)、「学内ネットワーク(AAA)の使いやすさ(73.6%)」(+15.2%)であった。学生がAAAの利用に慣れてきたことがうかがえる。 満足度が下がった項目は、「ボランティア支援室の対応(64.1%)」(-8.2%)、「食堂の環境(79.6%)」(-6.5%)、「食堂のメニュー(77.5%)」(-5.5%)、「キャリア支援センターの対応(80.9%)」(-5%)である。要望として具体的に記述されている点もあるので、さらに学生生活が充実したものになるように検討していきたい。 ・「わからない(利用なし)」という回答はその施設を利用していないのか、あるいはその場が周知されていないのかを回答結果から判断することができない箇所があった。次年度の設問の仕方を改善する必要がある。